

特集 の 視点

PROVISION 81号
コンテンツ・リーダー
北沢 強

System z 50周年特集号に向けて

IBM 701という最初のメインフレームを発表したのが1952年、今から62年前のことです。当時は互換性や汎用機といった概念がなく、コンピューターが乱立していく状況の中で、System/360は登場しました。このときの状況は、UNIXやPCサーバーが乱立してしまった現在と似ていると言われ、クラウドに収れんするトレンドをSystem/360に例える知識人もいます。トレンドには周期性があり、歴史は繰り返されます。50周年という節目を機に、改めて半世紀の過去を振り返り歴史から学ぶことで、今後の将来を見据えたい——そうした思いから、PROVISION「IBMメインフレーム50」を企画しました。

今回の特集号では、2003年に発表された「メインフレーム憲章」を軸として“Value” “Innovation” “Community”の3つ、時間軸から“過去” “現在” “未来”の3つの視点で整理をして記事をまとめました。座談会も企画し、過去を語るOB座談会、現在を語る現役SE座談会、そして将来を考える研究者の座談会を通じて、技術者の「生の声」を聞くことができました。お客様事例は、できればすべてのSystem zのお客様を掲載したかったのですが、誌面の関係から、3件のお客様を取材させていただきました。世界トップクラスの銀行であり、日本最大のメインフレーム・ユーザーであるお客様。常に最新製品をご採用いただきメインフレームの新機能を積極活用しているお客様。50年前にSystem/360で偉大な挑戦をし、今もその精神を受け継ぐパートナー様。3件のお客様に共通して言えることは、飽くなきチャレンジ精神とメインフレームへの信頼でした。

今回のPROVISIONは、一冊まるごとSystem zです。そしてこれからの50年、ここが出発点になります。お客様の夢を実現するために、System zが今後も信頼できるプラットフォームであり続けること——それを、この特集号の全編を通じて確信いただけるはずですよ。

特別インタビュー

34 椎名武雄が語る 「あの頃」

(日本IBM名誉相談役)



連載 情報技術の匠

64 「z」の匠スペシャル座談会 「z」の現在、そして未来を語る



■コラム

70 過去を語る Bob Neidig

72 メインフレーム・ミドルウェアの歩み

■連載 日々是革新

74 研究者だから語れる、
メインフレームのディープな話

〈表紙のこぼれ〉

ティラノサウルス・レックス (T・Rex)

1990年代のダウンサイジングの流れの中で、メディアはメインフレームを恐竜に例えて“絶滅危惧種”と書きたてました。しかし実際には、メインフレームはその後も増加傾向にあり、絶滅どころか繁栄の道を歩んでいます。z/Linuxの普及によりメインフレーム復活を確たるものにしたのが、2003年発表の「IBM zSeries 990」です。そのコードネームは「T・Rex」——史上最大級の肉食恐竜であり、生態ピラミッドの頂点に君臨したティラノサウルス・レックスに因んでいます。

